



「浦和のさかえに 歴史をほこる」これまでの150年、これからの50年

大いちょう

令和 3年12月 1日
さいたま市立高砂小学校

高砂小学校だより 令和3年度 No. 8 048 (829) 2737

目標あつての努力と協力

校長 永山 誉

高砂小学校のシンボルである「おおいちょう」は、眩しいくらいに黄色に色づいています。早いもので今日から師走。1年の内で一番長い学期となる2学期も、いよいよ残り1か月となりました。子どもたちには、当初にたてた目標がどれくらい達成できたか振り返らせて冬休みを迎えさせたいものです。

さて、「努力」や「協力」は聞きなれた言葉ではありますが、改めて辞書を引きなおすとこのように書かれています。努力とは、「力を尽くして励むこと」 協力とは、「力を合わせて事にあたること」 力を尽くすには、成し遂げようとする目標が必要ですし、力を合わせるには、共通の目標を持つ仲間が必要です。つまり、目標のないところに、努力も協力も生まれません。私は、先輩から教えていただいた、この言葉が好きでよく使います。

「努力はたし算、協力はかけ算」

「努力はたし算」とは、小さな努力でも、それを続けていればたし算の答えのように着実に大きくなっていくということです。「継続は力なり」というように、小さな努力を続けていくと大きな力になります。それに対して、「協力はかけ算」とは、一人ひとりが同じ思いで協力し合うことができれば、大きな力となるということです。一人ひとり小さな力でも、その力を結集すれば一人ではできなかったこともできるようになります。反対に、協力できない人がいれば、全体でもかけ算の答えは、0になってしまいます。少し乱暴な言い方になりますが、例えば、一人が1日に2ずつ5日間頑張るとしましょう。 $2+2+2+2+2=10$ となります。また、5人が2ずつ頑張るとすると、 $2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 = 32$ にもなり得るということです。しかし、一人でも協力できない人がいると、 $2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 0 = 0$ となってしまいます。学校生活は、一人ひとりの努力とみんなで協力することを学び続けるところです。ともに、自分の目標や共通の目標に向かって努力や協力し続けることの大切さを、これからも子どもたちに味わわせていきたいと思えます。

授業参観・懇談会への御出席のお礼と開校150周年記念誌の発刊について

先週行われました授業参観・懇談会には、たくさんの保護者の方々に御参加いただき、誠にありがとうございました。昨年の臨時休業以降は、分割や分散での実施でしたので、全員がそろっての授業参観・懇談会は、久しぶりとなりました。またまだ油断はできませんが、少しずつ日常が戻ってくることを切に願っています。また、この機会に、昨年以降着実に準備を進めてきました150周年記念誌が完成し、皆様のもとにお届けすることができました。開校150周年記念事業実行委員会の記念誌担当の皆様を中心に、高砂小学校の歴史を振り返り、これまでの記念誌を総括するような形で取りまとめることができました。後世に残る素晴らしい記念誌を皆様にお届けできたのも、実行委員会の皆様のお陰です。改めまして、感謝申し上げます。

2学期の終業式まで1か月を切りました。冬休みには、年末年始を迎えることから、御家族で過ごされる機会も増えるのではないのでしょうか。コロナ禍にあってオリンピックイヤーとなった令和3年度の年末年始、少し早いですが、御家族そろってよいお年を迎えください。